

姫路市長
石見 利勝 様

写

「播州屋台会館(仮)」 早期建設 提案書



平成 15 年 10 月 7 日(火)

屋台文化保存連絡会
社団法人 姫路青年会議所

平成 15 年 10 月 7 日

姫 路 市 長
石 見 利 勝 様

屋台文化保存連絡会
代表幹事 大西 壬
社団法人姫路青年会議所
理 事 長 糴川 英毅

「播州屋台会館(仮称)」早期建設 提案書

拝啓 秋晴の候 姫路市行政に於かれましては、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

日頃は弊会並びに弊所活動に対しまして、格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

扱て、屋台文化保存連絡会は、それまでの(社)姫路青年会議所の活動を承け継ぐ形で、祭・屋台文化の継承と保存、情報発信施設の建設とを目的として、平成 10 年 7 月に結成し、以降会員の拡大を図りつつ、所期の目的達成に向け、(社)姫路青年会議所と協働で様々な活動を展開して参りましたが、今般、標記の件に関しまして、下記の通り取り纏めましたのでご提案申し上げます。

何卒ご高配賜ります様宜しくお願い申し上げます。

敬 具

記

(項 目)	(頁)
1. 提案の背景・経緯・	3
2. コンセプト・	4
3. 展示概要・	5～13
4. 候補地・	14
5. 名称・	14
6. 推進・実行管理・	14
7. 寄贈・寄託・	15
8. まとめ・	15

※ 添付資料・

- ①署名簿：108, 584名分(平成 15 年 10 月 6 日現在)
- ②屋台文化保存連絡会概要書：1 部
- ③屋台文化保存連絡会会員名簿(平成 15 年 10 月 1 日現在)：1 部
- ④写真集「意を彫り技を刻む」：1 部
- ⑤写真集「意を縫い技を織る」：1 部
- ⑥会報「まつり」(創刊号～第 6 号)：各 1 部
- ⑦会館建設促進ポスター(平成 13 年度版)：1 部
- ⑧祭礼広報ポスター(平成 13 年度版)：1 部
- ⑨建設促進・祭礼広報ポスター(平成 14・15 年度版)：各 1 部

以 上

1. 提案の背景・経緯

かつては一世を風靡し、全国にその名を轟かせた播州彫刻の系譜は、地元播州に於いては細い枝を除いて途絶えている為、その存在はごく一部の市民にしか知られていなかった。そればかりか、作品の本当の価値が理解されていない為、手荒く扱われたり破棄されたり、年を経る毎に素晴らしい作品が失われつつあるのが実情であった。

他方、播州彫刻の流れを汲む岸和田・淡路等、共通文化保有地域では、播州彫刻の系統が隆々として栄え、畏敬の念を以って遇されている。特に岸和田に於いては、播州飾磨彫刻師としてその名と偉業とを施設に留めている。

このような状況を鑑み、平成8年、(社)姫路青年会議所が「存亡の岐路に立つ播州彫刻」として焦点を当て、姫路市書写の里・美術工芸館と協働で、「匠の技―播州祭り屋台の彫刻展」を開催し、姫路・播磨地域はもとより、全国各地から開館以来の記録的な来館者を集めると共に、同展記念写真集・記念CD-ROM「意を彫り技を刻む」の刊行等を通して、広く播州固有文化の情報発信活動を開始した。

こうした活動により、各地で保存会が結成されたり、或は伝統を守って行こうとの決議がなされたり、貴重な播州固有の文化財をそれぞれの地区で保存して行こうとの気運が芽生え始めた。

その後彫刻のみならず、播州の祭・屋台に関するソフト・ハード両面に亘る文化財を継承・保存・情報発信して行かなければならないとの声が各地域から沸き起こり、平成10年7月12日、播州祭・屋台文化の継承と保存・情報発信施設の建設とを目的として、姫路市内外約50の自治会と(社)姫路青年会議所とで屋台文化保存連絡会を結成し本格的な活動に入った。

以降、行政・JC・市民(屋台文化保存連絡会)での三者協働の下に、平成11年・12年・14年の三度に亘る姫路市書写の里・美術工芸館での展示会の継続開催(※)、「匠の技―播州祭り屋台刺しゅう展」記念写真集「意を縫い技を織る」の刊行、将来の会館建設に向けての祭・屋台関連物件の寄贈・寄託支援を行う一方、独自事業として、各種イベントでの建設訴求活動、会報の発行、播州屋台会館を模したホームページの開設、建設促進ポスターの発行、その他祭・屋台文化関連事業への支援・協力・協賛等、情報発信事業に止まらず所期の目的達成に向け、一般市民をも巻き込んだ種々の活動を展開して来た。

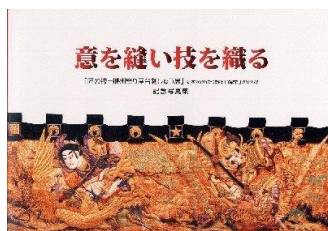
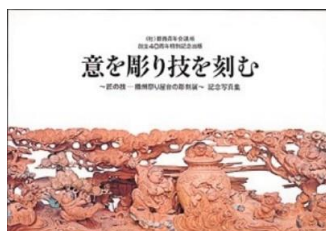
こうした活動を通じ、

- (1) 祭・屋台と云う播州固有文化の継承と保存・情報発信に資する施設建設に対する、市民の意識の醸成は充分に図られた
 - (2) 歴史と風土に根ざした祭りに関する習俗、或はその祭りで使用される有形・無形の文化財は、調査・研究・蒐集が遅れると、遅れた分だけ後世に伝えられる可能性が低くなる
 - (3) 姫路市新総合計画にある、「安全で安心して快適に暮らせる心かよう交流都市・姫路」を実現する為に必要な、高次な都市機能を備えた活力と魅力が増していく都市づくりとしての、
 - ① 姫路市・播磨都市圏の将来を支える新たな基盤整備の一つ
 - ② 姫路市・播磨都市圏の更なる魅力と活力とを創造して行く為の高次都市施設の一つ
- 以上の判断・観点に立ち、茲に『「播州屋台会館(仮称)」早期建設 提案書』を提出する次第である。

(※)平成11年：「播州祭り屋台―匠の技展」

平成12年：「匠の技―播州祭り屋台刺しゅう展」

平成14年：「祭礼図絵馬にみる屋台装飾展」



2. コンセプト

地元・播州姫路にとって祭りとは、ハード面からは、世界文化遺産・国宝姫路城と並んで全国へ、否世界へ誇れる文化財である。また一方ソフト面では、それを目指して祭りが行われている訳ではないが、結果として現代社会に於いて最も欠けている、子供・若者から老人・女性に到る迄、地域の全ての人々によって作り上げられる、コミュニティ継承・創造・形成の場としての要素をも備えている。

従って、これらの要素を満足し得るコンセプトは大要以下の通りである。

(1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。

- ①祭・屋台文化保有地区住民に心のよりどころである祭りに何時でも触れて戴ける施設。
- ②一般市民に播州の祭りを郷土の誇りとして感じて戴ける施設。
- ③青少年健全育成に寄与出来る施設。

(2) 播州固有文化を常に情報発信出来る施設。

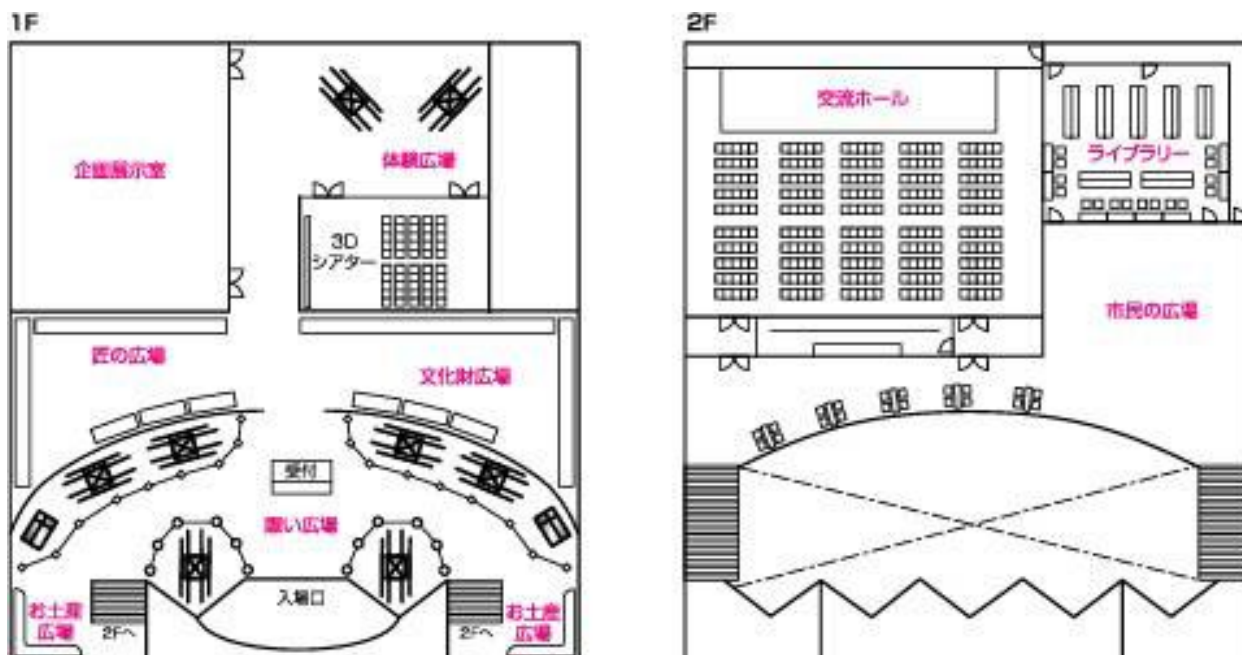
- ①観光客に二度三度と訪れてみたい、又実際に播州の祭りを見てみたいと思って戴ける施設。
- ②共通文化保有地域との交流拠点と成り得る施設。
- ③全国・全世界と祭礼に関する情報を交換出来る施設。

(3) 播州固有文化の保存(研究)・継承の施設。

- ①文化財的・屋台学的・民俗学的観点からの祭・屋台文化保存(研究)・継承施設。
- ②播州固有文化継承に資する青少年育成施設。

3. 展示概要

前述2. コンセプトを具現化する手法としての展示概要を、異なった要素を持つ九つの施設機能に分け、①狙い(ターゲットコンセプト) ②内容 ③展示アイテム ④展示方法 ⑤調達・更新方法 ⑥その他 の六つの項目別に説明する。



B 1 F : 管理事務所等・収蔵庫

B 2 F : 全床収蔵庫

(1) 賑い広場

① 狙い(ターゲットコンセプト)

(1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。

①祭・屋台文化保有地域住民に、心のよりどころである祭りに何時でも触れて戴ける施設。

②一般市民に、播州の祭りを郷土の誇りとして感じて戴ける施設。

(2) 播州固有文化を常に情報発信出来る施設。

①観光客に二度三度と訪れてみたい、実際に播州の祭りを見てみたいと思って戴ける施設。

②内 容

吹き抜けロビーに、祭りを彩る豪華絢爛な大屋台が常設展示され、圧倒的な迫力で来館者の度肝を抜く。屋台背後中央には超大型マルチスクリーンが設置され、その廻りにはモニターテレビがとり囲み、パソコンをクリックすれば、播州各地の祭りにスリップ出来る等、眼で耳で、播州の祭りの賑い・華やかさ・迫力を感じて戴く。

③展示アイテム

A. 現役屋台・檀尻 6 台程度 (現役屋台が望ましいが、退役後時間を経たおらず痛みが激しくなければ退役屋台での代用も考えられる。)

a. 神輿屋根型屋台＝灘型・魚吹型・浜の宮型等 神社類型別

b. 蒲団屋根型屋台＝反り型・平型 類型別

c. 檀尻＝巡行型・舞台型

B. 写真(パソコン・モニターテレビ各 10 台程度)

C. 動画(パソコン・モニターテレビ各 10 台程度)

D. 超大型マルチスクリーン

E. シデ竹・堤燈

F. 説明等＝類型別屋台・檀尻分布(含：播州地域内&全国各地との関連)等



④展示方法

A. 類型別に現役屋台・檀尻を 6 台程度(一定期間でローテーション)並べ、各地区の囃子・掛け声を BGM に、その豪華絢爛さと迫力を表現する。

[祭礼前後の一定期間⇒写真パネル展示(=「播州祭礼マップ」・「各神社行程表」等、実際の祭りを見に行き行って戴ける案内展示を心掛ける。)]

B. 播州一円の神社を網羅し、各神社・地区単位に、神社・屋台・檀尻の歴史が追え、特徴が詳らかに解る様、写真が解説文(ナレーション入)と共にモニターに映し出され、各神社・地区の思い入れが感じられる様構成する。(含：神社・各地区関連有形・無形文化財)

C. 神社毎に、最大の見所を最新の動画を用い、解説ナレーションと共に、賑い・華やかさを表現する。

D. 神社毎に祭りの最大の見せ場を、15~20 分程度のダイジェスト版に纏め上映する。

E. 色とりどりの御幣を施したシデ竹と堤燈とで祭りの雰囲気を出す。

F. キャプションによる解説展示 等

⑤調達・更新方法

A. 類型別に対象地区からローテーションで借受ける(当会活動の中で予め呼び掛けたい。)

B. 行政の呼び掛け・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用により、各自治会に自薦戴く。

C. 行政の呼び掛け・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用により、神社毎に自薦戴く。

D. 行政の呼び掛け・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用により、神社毎に自薦戴いたものを行政サイドで編集する。(B~D: いずれも、毎年蒐集・定期更新が必要)

E. 竹が何時も青々している様、定期的に更新を行う。

F. 行政・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用による聞き取り調査 等

(2) 体験広場

①狙 い(ターゲットコンセプト)

(1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。

①祭・屋台文化保有地域住民に、心のよりどころである祭りに何時でも触れて戴ける施設。

②一般市民に、播州の祭りを郷土の誇りとして感じて戴ける施設。

(2) 播州固有文化を常に情報発信出来る施設。

③観光客に二度三度と訪れてみたい、実際に播州の祭りを見てみたいと思って戴ける施設。

②内 容

賑い広場で播州の祭りの賑い・華やかさ・迫力を、眼で耳で感じて戴けたら、今度は実物の退役屋台で重量感を体験して貰ったり、大太鼓を打って戴いたり、或は3D体感シアターにて台場差し・神輿合せ・屋台の練り合せ・堤燈練り等、播州の祭りの心意気・迫力等を体感戴く。



③展示アイテム

- A. 退役屋台 2 台・退役檀尻 1 台程度
- B. 3D体感シアター(収容人員：50 名程度)
- C. 播州各地区のブイ(太鼓を打つ撥)の展示 等
- D. 各地獅子舞の実演・体験教室

④展示方法

A-1. 実際に担いで、屋台の重さを体感戴く体験コーナー。

(屋台が倒れない様、安全養生をする事はもとより、更なる安全を期す為、警備員の配置が必要。)

ー 2. 棒端の力強さを体験戴くコーナー。

ー 3. 実際に屋台に乗り大太鼓を打ち、その迫力を体感戴く体験コーナー。

(多数の来館者が予想される土・日・団体予約日等には、各地区からローテーションで、太鼓打ち実演・指導を戴く等、来館者が楽しめる企画が必要。)

B. 台場差しなら差し手の、屋台の練り合せなら乗子と練り子の、神輿合せや堤燈練りなら雑踏の中の練り子の視線で撮影した映像を上映し乍ら、座席がそれに合せて動く、数分程度のプログラムを5～10本程度用意する。

C. 神社別・地区別実物展示

D. 多数の来館者が予想される土・日・団体予約受入日等には、獅子舞の実演・体験教室等を開催する。

⑤調達・更新方法

A-1～3. 開館時に寄贈・寄託で新たに受け入れる。或は、現在公共施設に保管されている屋台・檀尻を祭・屋台文化専門施設として譲り受ける。

(但し、現在公共施設に有る屋台には太鼓が無く、譲り受ける場合には、夫々の屋台に合った太鼓を購入、或は寄贈・寄託で確保する必要がある。)

B. 会館建設に向けてのコンセンサスが得られれば、行政の呼び掛け・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用により、各地区の協力を得て、映像の集積と体感構成に入る。

C. 行政の呼び掛け・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用により、神社毎に取り纏める。

D-1. 文化財指定地区を中心に、獅子舞所有の市内各地区にローテーションでご協力をお願いする。



(3) 匠の広場

①狙 い(ターゲットコンセプト)

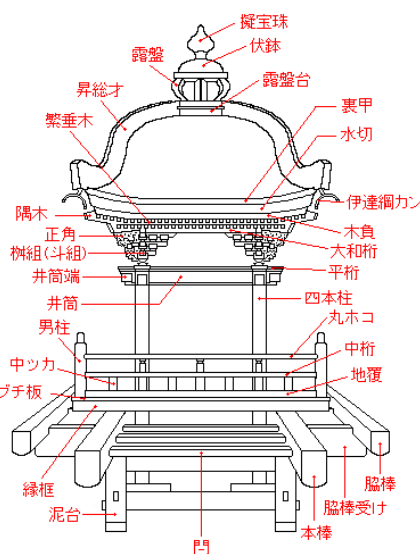
- (1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。
- ②一般市民に、播州の祭りを郷土の誇りとして感じて戴ける施設。
- (3) 播州固有文化の保存(研究)・継承の施設。
 - ①文化財的・屋台学的・民俗学的観点からの祭・屋台文化を保存(研究)・継承施設。
 - ②播州固有文化継承に資する青少年育成施設。

②内 容

播州の祭りの主役は何と言っても、匠の技の粋を集めた屋台・檀尻であり、この地元・播州が誇る総合芸術品(有形文化財)を存分にご堪能戴ける様、展示展開する。全国に名を轟かせた播州彫刻、絹常に代表される縫物(刺繍)、金・銀に輝く鍔金具(うっとり彫り)と言ったポピュラーなものは勿論、漆や金箔を施す塗り、太鼓、はたまた船大工の技術を含んだ屋台の構造といったものまでも展示し、そこにある匠の技と込められた匠の意とを感じて戴く。また、彫刻・刺繍・鍔金具と云った三大装飾品の実体験コーナー・教室も設ける。尚、本匠の広場を始め、祭・屋台文化に関する展示物は総体的にかなり大きく、また短時日での入れ替えを考慮に考慮に入れると、それらを保管出来る相当大規模な収蔵庫(耐震、耐火、温度・湿度管理設計)の確保が必須である。更に展示スペースに於いても、作品の日焼け防止等、品質保持対策も施さなければならない。

③展示アイテム

- A. 播州彫刻(露盤・挟間・正角・腰組・檀尻彫刻・其の他)
- B. 縫物(水引幕・高欄掛・乗子襦袢・伊達綱・隅紋り・房・其の他)
- C. 鍔金具(擬宝珠・露盤・紋・昇総才・総才端・水切・井筒端・高欄・其の他)
- D. 神輿屋根型屋台内部構造(A~D. 含: いづれも作業風景写真)
- E. 実演・実体験コーナー(彫刻・刺繍・鍔金具)
- F. 三大装飾品に関する系統(含: 全国各地の共通文化保有地域との関連図) 等



④展示方法

- A－1. 花岡・松本・黒田一門等、作者・部位別現物展示。[祭礼前後の一定期間⇒写真パネル展示]
- －2. 祭・屋台関連以外作品(神社・仏閣等)の写真パネル展示併設。
- B－1. 絹常等、作者・種別現物展示。[祭礼前後の一定期間⇒写真パネル展示]
- －2. 祭・屋台関連以外作品(歌舞伎衣装等)の写真パネル展示併設。
- C－1. カナセ・カナキ等、作者・部位別現物展示。[祭礼前後の一定期間⇒写真パネル展示]
- －2. 祭・屋台関連以外作品(神社・仏閣等)の写真パネル展示併設。
- D. 切断した屋台の棟の展示。(承接継がれる船大工の技術をお見せする)
- E. 多数の来館者が予想される土・日・団体予約受入日等には、三大装飾品ローテーションで、実演・体験教室等を開催する。
- F. キャプションによる解説展示 等
- (企画1) 彫 刻：共通文化保有地域(岸和田・淡路等)との共同彫刻展。
- (企画2) 彫 刻：全国祭り関連(井波・半田等)彫刻展。
- (企画3) 縫 物：絹常と歌舞伎衣装展。
- (企画4) 鋳金具：京都の名工展。等

⑤調達・更新方法

- A～C. 現在の屋台文化保存連絡会の寄贈・寄託支援事業の行政主導化による更なる推進と、行政の呼び掛け・同会の連絡網の活用による現役作品のローテーション借り受け。
- D. 屋台文化保存連絡会の寄贈・寄託支援事業の推進過程で、未受入れであるが某地区の屋台棟(抜魂済)を確保の見通し。
- E. これ迄の、姫路市書写の里・美術工芸館及び屋台文化保存連絡会との繋がりにより、彫刻＝二代目小河義保師、縫物＝川村雅美師、鋳金具＝竹内雅泉師等(含：お弟子さん)にご協力を願う。
- F. 行政・屋台文化保存連絡会の連絡網の活用による聞き取り調査 等
- (企画1～4) これ迄の、姫路市書写の里・美術工芸館を始めとする行政や屋台文化保存連絡会との繋がりによる要請。



(4)文化財広場

①狙 い(ターゲットコンセプト)

(3) 播州固有文化の保存(研究)・継承の施設。

①文化財的・屋台学的・民俗学的観点からの祭・屋台文化保存(研究)・継承施設。

②内 容

古より連綿と受け継がれ、江戸時代から現在の様式が定着して来た播州の祭り、その祭りの変遷は勿論、各神社・各地域に残された絵馬・絵巻物・文献・資料のみに止まらず、屋台学的見地に立った貴重な作品をも蒐集・展示し、その歴史を解き明かすと共に、地区によって異なる掛け声・太鼓の打ち方等、先人の残してくれた無形の文化に関する展示に工夫を凝らし、現代に生きる我々が次の世代へ引き継いで行こうとする意識を醸成出来る様、民俗学的観点からの考察も併せ展示展開する。

③展示アイテム

A. 説明等(含：播州地域内&全国各地との関連図)

a. 無形文化財指定地区の祭礼の歴史・変遷(含：祭礼絵馬のパネル)

I 「大塩天満宮獅子舞」姫路市無形民俗文化財(昭和 63 年 2 月 29 日指定)

兵庫県無形民俗文化財(平成元年 3 月 31 日指定)

II 「正八幡神社龍王舞」姫路市無形民俗文化財(平成 2 年 11 月 27 日指定)

III 「松原八幡神社秋季例祭風流」姫路市無形民俗文化財(平成 4 年 10 月 3 日指定)

IV 「魚吹八幡神社秋季例祭風流」姫路市無形民俗文化財(平成 4 年 10 月 3 日指定)

V 「松原獅子檀尻」環境庁「日本の音風景百選」(平成 5 年選定)

VI 「別所西獅子舞」姫路市無形民俗文化財(平成 11 年 12 月 20 日指定)

VII 「浜の宮天満宮秋季例祭屋台練り台場差し」姫路市重要無形民俗文化財(平成 13 年 8 月 23 日指定)

b. その他播州各地区祭礼の歴史・変遷(含：祭礼絵馬のパネル)

c. 播州各地区の太鼓の打ち方・掛け声・囃子方・伊勢音頭の比較

d. 類型別太鼓の打ち方・掛け声・囃子方・伊勢音頭分布図

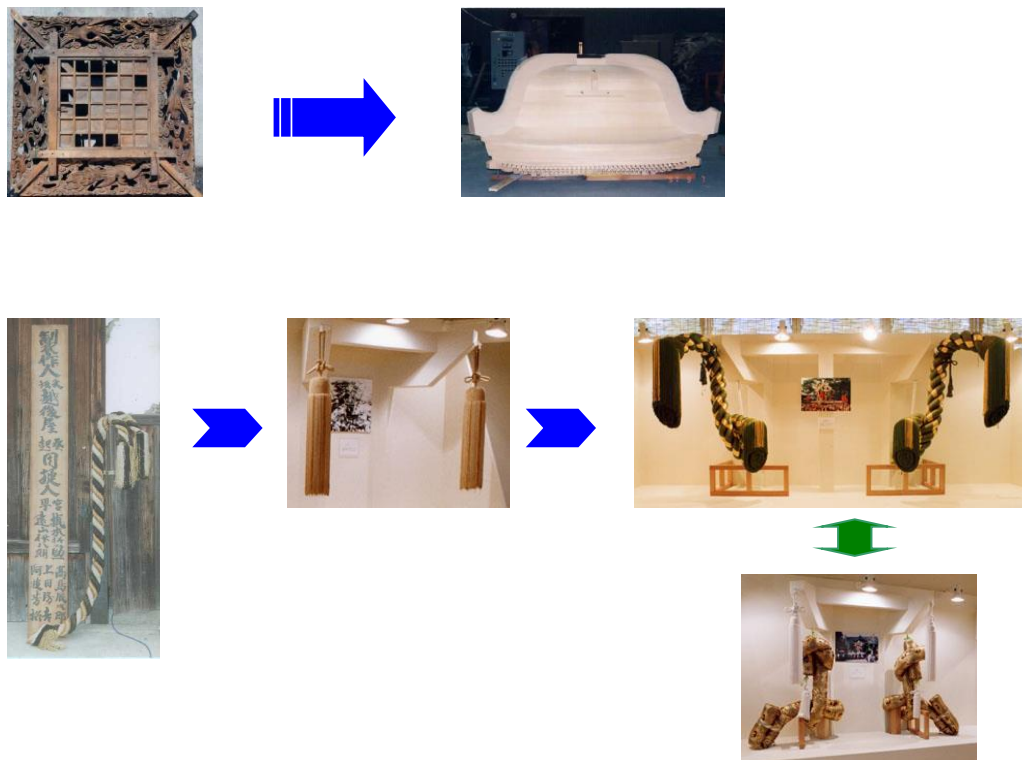


B. 二尺二寸蒲団屋根型屋台雲板

(屋台学的見地からの、蒲団屋根型屋台⇒神輿屋根型屋台への変遷展示)

C. 二股伊達綱・房(屋台学的見地からの、房⇒伊達綱への変遷展示)

D. 伊達綱と隅紋(屋台学的見地からの、伊達綱と房との差異・変遷展示) 等



④展示方法

A. キャプション・動画・写真・音声等による徹底解説展示

(民俗学的見地から、各神社・地区に関連する絵馬・文献等を併設展示)

B～D. 現物展示とキャプションによる考察展示 等

(企画5) 観光シーズンに於ける「大塩天満宮獅子舞」等、民俗分野の実演展示。

(企画6) 例として詳しい資料が豊富に残っている某地区の祭礼変遷史。

⑤調達・更新方法

A. 行政・屋台文化保存連絡会による展示に向けての再調査

B. 屋台文化保存連絡会の寄贈・寄託支援事業により二尺二寸蒲団屋根型屋台雲板確保済

C. 屋台文化保存連絡会の寄贈・寄託支援事業により或地区の二股伊達綱・房確保済

D. 屋台文化保存連絡会の寄贈・寄託支援事業の推進により確保可能

(企画5) 行政や屋台文化保存連絡会との繋がりによる要請。

(企画6) 屋台文化保存連絡会の寄贈・寄託支援事業の推進過程での調査により確保可能。

⑥その他

「播州屋台会館(仮称)」内に、これまで行政として踏み込んだ事の無い、播州祭・屋台文化に関する研究室的な部署を設置し、調査・研究・蒐集機能を持たせ、今後の更なる地域固有文化の保存・継承・発展に資する事は必須の要件である。また当室配置の学芸員には、祭・屋台文化と云う或る意味特殊な知識を持った民間人を客員学芸員として迎える事も必要であろう。

(5)市民の広場

①狙 い(ターゲットコンセプト)

- (1)播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。
- ③青少年健全育成に寄与出来る施設。

②内 容

投稿された写真・ビデオを展示・放映するコーナーや、市民が作り観光客・来館者が投票する屋台ミニチュアコンテストの企画等、老いも若きも祭りが大好きな播州人の思い出が表れる様な展示展開を目指すと共に、祭りは現代社会に於いて最も欠けている、子供・若者から老人・女性に到る迄、地域の全ての人々によって作り上げられるものである。との観点から、コミュニティによる教育の場としての側面も持たせた展示を心掛ける。

また、「一つ山大祭」「三つ山大祭」「浴衣まつり」等、屋台・檀尻以外の市内各地の春夏秋冬を通じた、祭礼・行事を紹介する。

③展示アイテム

- A. 投稿写真
- B. 投稿ビデオ
- C. 播州祭礼玩具
- D. ミニチュア屋台
- E. コミュニティドキュメントビデオ 等

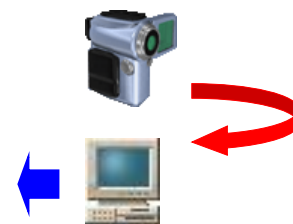


(元来祭りが盛んで地域コミュニティが発達している地域の映像と、近年祭りが盛んになり地域コミュニティの育成に成功した地域の映像と二様必要。)

- F. 「一つ山大祭」「三つ山大祭」「浴衣まつり」等の紹介

④展示方法

- A. パネル展示
- B. モニター展示
- C. 現物展示
- D. 現物展示
- E. モニター展示 等
- F. パネル・ビデオ・キャプション展示



- (企画7) 市民が作り観光客・来館者が投票する屋台ミニチュアコンテスト。
- (企画8) 全国の祭礼玩具展。
- (企画9) 市内小学生を対象にした、コミュニティ学習上映展示。

⑤調達・更新方法

- A. 行政からの呼び掛けによる蒐集。(要：毎年更新)
- B. 行政からの呼び掛けによる蒐集。(要：毎年更新)
- C. 現在公共施設で収集されている物件の「播州屋台会館(仮称)」への集約と、寄贈・寄託支援による新規蒐集。(要：継続蒐集)
- D. 行政からの呼び掛けによる蒐集。(要：継続収集)
- E-1. コミュニティ創造紙芝居「大屋台復活物語！」(平成14年：(社)姫路青年会議所制作)
(「プロジェクトX」仕立てで「WINK」にて放映)
- 2. 行政による対象地区の選定と要請、企画会社による撮影と編集 等
- F. 行政所有の資料を活用。
(企画7) 行政からの呼び掛けによる応募。(1回/年 開催)
(企画8) 行政網を駆使した企画。
(企画9) Eのドキュメントビデオをコミュニティ学習に活用。

⑥その他

次項、交流ホール⑥その他に併せて記載。

(6) 交流ホール

①狙 い(ターゲットコンセプト)

- (1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。
 - ③ 青少年健全育成に寄与出来る施設。
- (2) 播州固有文化を常に情報発信出来る施設。
 - ② 共通文化保有地域との交流拠点になり得る施設。
 - ③ 全国・全世界との祭礼に関する情報を交換出来る施設。

②内 容

館内に約 250 名収容の音響設備・スクリーン等を配したホール備え、地域・学校のコミュニティ学習・共通文化保有地域との交流・全国・全世界との祭礼に関する交流拠点となり得る概要を整え、将来祭り文化のメッカとして当館が位置付けられる様、陣容を整備しておく。

③催事アイテム

- A. 地域・学校のコミュニティ学習「祭りがつくる地域コミュニティ」
- B. 各種文化活動の発表
- C. 世界・全国祭りサミットの開催 等

⑥その他

市民の広場・交流ホールの附加機能として、コンセプトにある、コミュニティの継承・創造・形成に資する為に、祭・屋台文化保有地域住民が心のよりどころである祭りに何時でも触れられる事は元より、一般市民が播州の祭りを郷土の誇りとして感じられる仕掛けとして、現在の姫路市連合自治会事務局を「播州屋台会館(仮)」内に移設・拡充する事も視野に入れておきたい。

(7) ライブラリー

①狙 い

- (1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。
 - ① 祭・屋台文化保有地域住民に、心のよりどころである祭りに何時でも触れて戴ける施設。
- (3) 播州固有文化の保存(研究)・継承の施設。
 - ① 文化財的・屋台学的・民俗学的観点からの祭・屋台文化保存(研究)・継承施設。

②内 容

誰もが何時でも、どの地区の祭礼データでも取り出せるライブラリー機能を持たせる。

③保管データ

- A. 地区別歴代屋台諸元(製作年 等/大工・彫刻師・鋳金具師・縫師 等)
- B. 写真(年度別・地区別)
- C. 動画(年度別・神社別)
- D. 当該年度祭礼行程表・アクセス図(神社別)
- E. これまでNHK・民放各社で放送された関連番組

④調達・更新方法

- A. 行政主導で、各自治会・地区に要請。
- B. 行政主導で、各自治会・地区に要請。(要常例化)
- C~D. 行政主導で、各連合自治会・氏子地域に要請。(要常例化)
- E. 行政よりNHK・民放各社に要請。

⑥その他

市民・観光客の祭礼に関する問い合わせにも対応出来る体制にしておく必要がある。



(8) 企画展示室

①狙 い(ターゲットコンセプト)

会館コンセプトにある、三つの場・八つの目的を達成し、将来播州が牽いては「播州屋台会館(仮称)」が祭り文化のメッカと云われる拠点施設に成り得る様、前述した展示概要全てをバックアップしつつ、また全国の同様の施設が抱えている悩み・弱点(展示の硬直化等によるリピーター不足・入館者の伸び悩み及び減少)を克服する為、前後記(企画展示1～10)をタイミング良く行う。

この展示室の活用方策については、今後共当会より引き続き提案して行く事は論を待たないが、行政・市民協働での利用企画の立案が肝要と思われる。

②催事アイテム

前後記(企画1～10) 他



(9) お土産広場

①狙 い(ターゲットコンセプト)

(1) 播州固有文化に常に触れる事を通して地域コミュニティの継承・創造・形成に資する施設。

①祭・屋台文化保有地域住民に、心のよりどころである祭りに何時でも触れて戴ける施設。

②一般市民に、播州の祭りを郷土の誇りとして感じて戴く。

(2) 播州固有文化を常に情報発信出来る施設。

①観光客に二度三度と訪れてみたい、実際に播州の祭りを見てみたいと思って戴ける施設。

②内 容

祭・屋台文化保有地域住民にとっては、祭りに関する必需品が購入出来、一般市民にとっては、郷土の誇りとして播州の祭りに関する手土産が、観光客にとっては、勿論播州の祭りを旅の思い出として持って帰って戴けるお土産品が手に入る、播州の祭りに対する想いを提供出来る売り場を指向する。

また、播州の祭り・会館に因んだ新商品の開発も必要であろう。

③アイテム

A. 必需品：まわし・足袋・腕守り 等

B. 書籍類：播州祭り関連図書・カレンダー・ポスター 等

C. 土産品：ミニチュア屋台・お土産用三大装飾品・携帯ストラップ(ブイ・伊達綱) 等

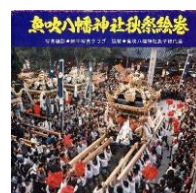
D. 企画品：カレンダー・ポスター・お土産用食物(饅頭・煎餅等) 等

E. ゲームコーナー

a. プリクラコーナー：背景・フレーム等に気に入った屋台・植尻を選べる。

b. 業者に開発させた、その他播州の祭りに因んだゲーム 等

(企画10) 全国祭りグッズフェア



4. 候補地

先ず、旅行会社との提携の下、その他の観光資源とルートを形成し易く、観光客を集客出来る場所であり、また、祭・屋台文化保有地域住民は勿論、一般市民にとっても足を運び易い交通至便の地が望ましい事は言うまでも無い。

一方、元来祭りと云うものは全国何処に於いても、神社・地区(町・村)単位のナショナリズムの最たるものであらうと思われるが、他地域と比較して播州の祭りが大きく違う特色は、広範囲に亘り数多くの神社が存在し、それぞれ独立して各々の祭りをを行っている事であらう。

従って、神社単位のナショナリズムが極めて旺盛であり、例えば、祭りをを行っているA神社地域内に候補地を選定すれば、それ以外の多くの神社・氏子地区からは、建設に対する支援は元より、最も重要な開館後の展示展開に於ける協力も非常に得難いものとなり、播磨・姫路全体の祭りを網羅するには到らない恐れが多分に生じる事が予測される事から、「播州屋台会館(仮称)」建設候補地の選定には十分な配慮、即ち第三者的な地域にその場所を求める事が望ましい。

結論として、提案の背景・経緯並びにコンセプトを最大限満足し得る最適候補地に、播州最大の観光資源である「世界文化遺産・国宝姫路城」近接地域を提案する。



5. 名 称

平成8年以来、屋台文化保存連絡会並びに(社)姫路青年会議所では、「播州屋台会館」と云う名称を使っているが飽くまで便宜上の(仮称)であり、より以上に播州・姫路の固有文化である「祭り」を表現出来る名称を一般市民よりの公募で決定出来れば、本施設が市民にとってより身近な存在となるであらう。

6. 推進・実行管理

決裁・決定を受けた後の推進及び実行管理組織については、「播州屋台会館(仮称)建設検討委員会」を設置し、その機関に於いて本提案書の内容をより掘り下げるべく検討・研究を加え、最終概要を策定する事とする。

その際には、元来、播州祭・屋台文化はその名の通り、姫路が中心ではあるが播州一円に存在する広域的な地域固有文化でもある事を充分に考慮に入れ、姫路市内に止まらず周辺地域との連携の下、広がりを見とをその概要に附加して行く事も重要である。

また、全国各地の同様の施設はリピーターの確保を始め来館者確保に苦慮しているのが実状であり、その原因は、展示アイテム・内容の硬直化によるところが大である。従って、本「播州屋台会館(仮称)」に於いても同様の事態が危惧される事から、展示アイテムの短時日での入れ替えは元より、共通文化保有地域を中心に全国各地との連携の下、常に新しい企画等を展示展開の中に活かせる等、これの解決方策を計画・準備段階から担保し得る運営形態を指向しておかなければならない。

幸い屋台文化保存連絡会は、平成10年の設立より既に5年余、(社)姫路青年会議所が活動を始めた平成8年からすれば7年余、本提案に関する活動を継続展開しており、未だ充分ではないが相応の連絡・情報収集体制は整っており、建設並びに開館後の展示展開への協力を得る為にもハード面は元より、ソフト面の充実を図る為にも、「播州屋台会館(仮称)建設検討委員会」は、行政並びに有識者及び屋台文化保存連絡会を始めとする市民との協働で組織する事が肝要であり、そこでの概要策定を経て、またパブリックコメント制度の積極的活用等、市民の意見を充分に取り入れた上で、実行組織である行政主体の「播州屋台会館(仮称)建設プロジェクトチーム」を組織し、建設地の決定・設計競技・実施設計・建設業者の選定等、具体的作業の遂行に引き継ぎ・委ねる事が望まれる。

7. 寄贈・寄託

(1) 重要性

歴史と風土に根ざした祭りに関する習俗、或はその祭りで使用される有形・無形の文化財は、調査・研究・蒐集が遅れると、遅れた分だけ後世に伝えられる可能性が低くなり、地域固有文化の保存(研究)・継承が困難になる。

(2) これまでの活動

屋台文化保存連絡会は平成11年より有形物件についての寄贈・寄託支援事業を展開し、文化財的価値のみならず、屋台学的・民俗学的観点から重要と思われる物件も含めて、弊会会員地区を中心に活動を行ったところ、下記の物件を蒐集する事が出来、公共施設にて保管戴いている。

(3) 一覧(註：網掛けは屋台文化保存連絡会が、その寄贈・寄託に関して支援した物件を表す。)

物 件	神 社	地 区	寄 贈 ・ 寄 託 先	年/月/日	寄贈	寄託
屋 台 本 体	松 原	松 原	兵 庫 県 立 歴 史 博 物 館	昭和56年	○	
屋 台 本 体	魚 吹	宮 田	姫路市書写の里・美術工芸館	平成06年	○	
水 引 幕	魚 吹	西土井	姫路市書写の里・美術工芸館	平成06年	○	
檀 尻 本 体	魚 吹	垣 内	兵 庫 県 立 歴 史 博 物 館	13/04/08	○	
水 引 幕	魚 吹	丁	姫路市書写の里・美術工芸館	11/12/10	○	
水 引 幕	御津春日	伊 津	姫路市書写の里・美術工芸館	12/03/25		○
房	御津春日	伊 津	姫路市書写の里・美術工芸館	12/03/25		○
房	御津大歳	加 家	姫路市書写の里・美術工芸館	12/10/22		○
屋 台 蔵 跳 板	浜 の 宮	宮	姫路市書写の里・美術工芸館	12/10/25		○
蒲団屋台雲板	魚 吹	平 松	姫路市書写の里・美術工芸館	12/12/10	○	
脇 棒 受	魚 吹	平 松	姫路市書写の里・美術工芸館	12/12/10	○	
二 股 伊 達 綱	富 嶋	浜田南	姫路市書写の里・美術工芸館	13/08/25		○



(4) 今後の運営と課題

この活動過程に於いて、「播州屋台会館(仮称)」の建設が出来たならば寄贈・寄託したい。との意向を持っている地区を相当数聞き取っており、その物件は彫刻・鍔金具・縫いから棟(屋根)に至る迄多岐に亘っており潜在蒐集力は非常に高く、行政主体の蒐集作業が早急に望まれるところである。

またその保管場所についても、姫路市書写の里・美術工芸館を始め、公共施設の収蔵庫は飽和状態に近づいており、収容能力の問題で保留している物件も少なからずあるのが現状である。従って「播州屋台会館(仮称)」が建設される迄の間は、物件によっては空き教室の有効活用等の方策による早期の蒐集が望まれる。

8. まとめ

以上縷々述べて来たが本提案の根底に流れるものは、「世界文化遺産・国宝姫路城」と並ぶ播州最大の観光資源である「播州祭・屋台文化」の情報発信を通して、地域固有文化の保存・継承と地域コミュニティの活性化とを図る事である事を申し添えると共に、「播州屋台会館(仮称)」の実現が、郷土愛を育み地域アイデンティティを確立する事を確信し本提案を締め括る。